

黒いバッタの正体は？

黒いトノサマバッタ（成虫）→



←黒いトノサマバッタ（幼虫）

初夏から秋口にかけて、博物館には「黒いバッタ」の情報が寄せられます。博物館に持ち込まれる黒いバッタはたいてい幼虫です。その姿から、バッタ科の一種ということはわかるのですが、私の知識では、幼虫で種名まで確定するのは困難です。確実に種名を突き止めるには、飼育して成虫の姿を確認することです。

この6月にお客さんから預かっていた黒いバッタを草の入ったケースに入れておいたところ、翌日には羽化してはねが伸びた成虫になっていました。はねの模様からトノサマバッタと確認することができました。トノサマバッタの体色には変異があるものの、緑または茶色タイプがほとんどです。このことは、えさやすみかとしての草の色が緑か茶色（枯草）ですから自分の身を敵から隠すのに都合がよいと考えられます。たまに見つかる黒いトノサマバッタは人にもすぐ見つかってしまうくらいですから目立っており、敵の目から逃れるには不利ではないかと思います。黒いトノサマバッタの情報は毎年一定数あり、突然変異のような珍しいものではないと考えていますが、今のところ何が原因で黒くなるのかよくわかっていません。

奥島雄一(昆虫担当)

パオちゃんズアイに関するお問い合わせは

倉敷市立自然史博物館

〒710-0046 岡山県倉敷市中央 2-6-1

電話:(086)425-6037 FAX:(086)425-6038

E-mail:musnat@city.kurashiki.okayama.jp



「パオちゃん's EYE」
は博物館ホームページでカラーで見られるよ！

